

平成23年度経営協議会における学外委員からの意見と本学の対応状況(平成24年3月29日現在)

[第2回経営協議会 平成23年9月28日]

審議事項又は報告事項における意見

議題	学外委員からの意見	本学の対応状況
東京海洋大学基金 趣意書について	大学基金の目標額を設定したほうがよいのではない か。継続的に寄附を募る基金としても、使用する目的 や必要な額の説明があったほうが寄附しやすいもので ある。	○ 目標額の設定について 目標額の設定について検討し、現在実施している修学支援(授業料免除)状況及び学 部による課外活動等への支援状況等を基に年間目標額3千万円と設定した。
	寄附をする企業としては、業績は毎年度変化し、寄 附できる時とできない時があるので、継続的に依頼し てもらいたい。また、基金の用途、成果等についての 報告をしてもらいたい。	○ 継続的な寄附依頼について 寄附の依頼については、ご指摘のとおり継続的にお願いすることとしたい。 また、基金の用途・決算状況等について寄附者に報告することとする。

意見交換における意見

議題	学外委員からの意見	本学の対応状況
東日本大震災復興 支援について	震災復興支援策を通じて学生も成長するように配慮 されたい。	○ 学生の支援活動への参加について 大学として教育研究を行う本分を果たしながら、しっかりとした支援ができるように検討 してきた。学生は、復興支援プロジェクトに参加し、調査・研究への参加等を通じて成長 の機会を得ている。
	「過疎・高齢化に適応した新たな沿岸地域モデルの 構築」プロジェクトは、中長期的なものを目指しており、 良いタイトルである。内容の充実を期待したい。	○ 「過疎・高齢化に適応した新たな沿岸地域モデルの構築」プロジェクトについて 本プロジェクトについては、平成24年度概算要求による事業費は認められなかった。そ のため、23年度と同様に24年度も「学内プロジェクト研究」として、水産物の利用加工の テーマを含む事業内容の充実を図るとともに、岩手大学との連携事業や、東北マリンサ イエンス拠点形成事業との兼ね合いを見ながら進めていくことを考えている。また、「東 京海洋大学三陸サテライト」を気仙沼市に設置し、拠点を置いて三陸沿岸を一体化した 取組を行うことにしている。
	被災地では、水産物の利用加工の問題が重要な課 題となっているので、プロジェクトに上手にとり入れて いくことが大事である。	○ 被災地のニーズの把握等について 復旧の状況及びこれまでの調査結果等から被災地のニーズを把握しつつ、頂いたご 意見を踏まえて、今後も本学の特徴を活かしながら、海洋に関わってきた大学としての 使命感を持って全力で取り組んで参りたい。

平成23年度経営協議会における学外委員からの意見と本学の対応状況(平成24年3月29日現在)

[第3回経営協議会 平成23年12月7日]

報告事項における意見

議題	学外委員からの意見	本学の対応状況
<p>三陸水産業の復興に関する岩手大学と北里大学との連携推進に関する基本合意の締結について</p>	<p>東日本大震災被災地の復興支援は学生もボランティア活動として行っているが、復興支援への取組として、学生も頑張っているということを世間に示すことが学生の励みにもなるのではないか。</p>	<p>○ 広報誌・ホームページへの掲載 (1)24年度に使用する受験生向け広報冊子に、学生ボランティアの取組を写真を付して掲載した。 (2)大学ホームページに、本学の復興支援の取組一覧を紹介するページを作成し、そのページ内に学生ボランティアの欄を設けた。</p> <p>○ 学生の支援活動の積極的な広報 学生は、ボランティア活動の他にも、復興支援プロジェクトや調査研究の一環など様々な形で復興に貢献しているので、今後も学生の支援活動について広報していきたい。</p>